

令和6年度自己評価・学校関係者評価 結果公表シート

学校法人八尾聖光学園 聖光幼稚園

園の保育目標幼稚園は生涯教育の第一歩です。そのため子ども一人ひとりの遠い将来を見据えた地道な教育が必要です。つまり幼児期は花を咲かせる時期ではなく、土の下に隠れていて今は見えない「根っこ」に十分な水と栄養を与えていく時期だと考えています。

本園では望ましい幼児の姿として、次の3項目を挙げています。

1. 思いやりのある子
2. 物を大切にする子
3. 自分で考えて、自分の思いを表現できる子

1. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

昨年度同様、評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することで、保育者自らが客観的に自園を見る目を養い、環境全般の改善、保育内容や保育方法の改善に主体的にとりくんでいくことを目標とする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況と評価

評価項目	取組状況	評価
幼稚園の教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	幼稚園教育要領の理解を全教職員で積極的に推進し、それを実際の保育に添わせるように、具体的な場面について積極的に話し合いを行っている。	A
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	各クラス毎にその月や週の課題を提示し、対策を協議し、毎学期ごとに成果を報告し合うようにしている。	A
教育の質の向上のために、園内研修を充実させ、園外研修にも積極的に参加させる。	園内研修を積極的に実施し、他園の公開保育ECEQにも参加した。保育の質を高める貴重な意見を参考にすることができた。また、オンラインによる園外研修やキャリアアップ研修を積極的に受講した。	A
特別支援教育	職員全員で支援を要する幼児の課題に関するカンファレンスを行い、チームティーチングの機能と充実に努めた。特別支援教育の専門家に定期的に講演を依頼し、その指導・助言を参考に、支援を必要とする園児のニーズを適確に読み取れる能力を培うよう努力している。保護者との連携を密にし、園との信頼関係を図るよう努めている。また、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、看護師等の専門職スタッフの指導を受けつつ連携をはかっている。	A

幼保こ小連携	卒園児には就学前に就学予定の地域小学校への丁寧な引継ぎができるように配慮している。年長クラスの教員は八尾市の幼保こ小連携研修に参加した。他園や小学校との情報交換を積極的に行った。	A
施設・環境の整備と充実	園庭や室内の遊具を安全面で問題ないか日常的に点検管理した。また、こども達が興味を持ち、豊かな園生活が過ごせるための遊具を取り入れた。	A

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	例年、保育者一人ひとりが学校評価の趣旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる。今後も客観的な目で自らの保育を振り返り、さらに充実した実践ができるように努力を積み重ねていきたい。職員間のコミュニケーションを積極的に図り、課題の解決に向けた共通認識を持つために、毎日、一定時間の職員会議を行い、概ね目標を達成できた。

「3. 4. 」の評価結果の表示

評 価	十分達成されている	A
	達成されている	B
	取り組まれているが、成果が十分でない	C
	取り組みが不十分である	D

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理	本年は、巨大自然災害や人的災害にや対応するための避難訓練や災害備品の点検を行い、不足分を補充した。日常保育での安全・危機管理対応が充分か全職員で検討し、対策マニュアルを共有した。
園に対する保護者の満足度の把握	本園の特色ある保育のうち十三峠越え等の園外保育は例年ほぼ変わりなく実施できるようになった。通常保育、園外保育とも保護者の満足度は得られるようになった。さらなる保育の質向上や運営の改善に向けて保護者の意見を取り入れながら本園らしさの復活をめざし、課題解決を図っていった。

6. 学校関係者評価委員会の意見

学校関係者評価委員からは、園長と職員・保護者との円滑なコミュニケーションが取れ、概ね良好な運営がなされているとの評価を得ている。保護者からは今年度は、楽しみながら安心して子どもを預けることができた。例年行われている聖光幼稚園らしい園外保育が実施され、聖光幼稚園らしい保育が行われるようになってきているのは喜ばしい。

臨床心理士や作業療法士、言語聴覚士、看護師等の専門家から子育てに対する適切なアドバイスやいねいなカウンセリングを受けることができているようである。子育て支援にも積極的に取り組み、保護者からのニーズに耳を傾け、早期の改善や解決に向けて積極的に取り組んでもらえているとの評価をいただいた。